



発行日 平成25年5月1日



No. 2

「啐啄同時（そったくどうじ）」

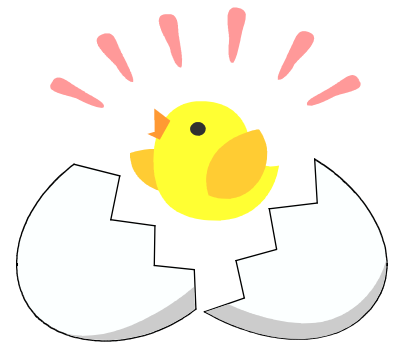
校長 溝江 透

気温が上がったり下がったりと落ち着かない天候が続いていますが、校庭に植えられた木々の新芽が一斉に吹き出し、猪子山も濃い緑や薄い緑が入り交じり緑の模様を編み出しています。本当に新緑が美しい季節となりました。植物はもちろんのこと、ツバメなども渡ってきて巣作りを始めます。生きるもの全てがエネルギーにあふれる季節です。

禅の言葉に「啐啄同時（そったくどうじ）」というのがあります、5月は野鳥にとっては子育ての時期です、卵の中の雛鳥が殻を破ってまさに生まれ出ようとする時、卵の殻を内側から雛がコツコツとつつくことを「啐（そつ）」といい、ちょうどその時、親鳥が外から殻をコツコツとつつくのを「啄（たく）」といいます。雛鳥が内側からつつく「啐」と親鳥が外側からつつく「啄」とによって殻が破れて中から雛鳥が出てくるのです。

親鳥の「啄」が早すぎたり、強すぎたりすると、中の雛鳥の命があぶないし、雛鳥の「啐」をきちんと聞き取れず親鳥の「啄」が無いと、やはり雛鳥はうまく孵（かえ）りません。それだけに危険な一瞬であり啐と啄は同時でなくてはならないということだそうです。

家庭においても、親の思い（指導性）と子どもの思い（自発性）とが一致した時、子どもが大きく育つ時ではないでしょうか。ほんのちょっと待っていれば子どもがひとりでに覚えたり行動したりするのに、無理に教えこもうとしても効果は現れません。また逆に、その時期にきちんと教えなければ身につかないこともあります。子どもの発する「啐」の音をきちんと聞き取ることが、親として大事にしたいことです。



ゴールデンウィークも後半となります。新学期、「やる気」いっぱいがんばってきた子どもたちです。子どもたちも我々大人も、ゆっくり、のんびり、エネルギーを充填する時でしょうか？

連休が明ければ、再び「やる気」いっぱい「元気」いっぱい子どもたちとの出会いを楽しみにしています。

朝のあいさつしっかりできています

毎朝、校門前に立って子どもたちを迎えるようにしています。能登川南小学校の子どもたちはみんなとっても元気な声で「おはようございます」のあいさつが言えていて、感心しています。元気なあいさつで、一日がとても気持ちよく始まります。

青少年育成市民会議能登川支部でもあいさつ運動を展開されています。「大人が変われば子どもも変わる＝1日目標10人以上＝」というのがスローガンだそうです。

Photo News

フォトニュース

4月8日（月） 入学式

102名の1年生が入学しました。
どの子も、やる気満々、きらきらと目を輝かせていました。



担任の先生から名前を呼ばれました。



1年間使う教科書をいただきました。



2年生が学校の紹介をしてくれました。



4/10 給食開始（2～6年生）



4/12 給食開始（1年生）



4/16 猪子山たんけん（3年生）



4/18 EM菌を配りました



4/23 トトロの森の皆さんによる読み語り

能登川南小学校ホームページにも、子どもたちの活動の様子を掲載しています。是非ご覧ください。
ホームページアドレス：<http://www2.higashiomori.ed.jp/notminamisho/>